

受診・暮らし実態調査(最終集計)

「75歳以上医療費窓口負担2割化」の影響による受診抑制など 「安心して医療を受けられない」「これ以上の負担は無理」の声、多数

全国保険医団体連合会

はじめに

長引くコロナ禍、物価高騰、年金引き下げのもとで、昨年10月から「75歳以上の医療費窓口負担2割化」が強行された。対象は年収200万円以上（単身、複数世帯：年収320万円以上）の人、約370万人。既に年収383万円以上は3割負担となっており2割化は中低所得者（年収200万～383万円未満）を対象に行われた。保団連では、高齢者の生活実態が苦しさを増す中での窓口負担増で経済的理由による受診控えが懸念されることから、患者さんの受診状況や生活実態をつかむために医療機関の待合室やイベントなどでアンケート調査を実施した。今回、75歳以上の窓口負担2割化の影響を見るため、有効回答17616件のうち75歳以上の人の回答4694件について、集計結果を報告する。

アンケートからは、2割化の影響による「受診控え」がすでに生じていることが伺えた。また、高齢者の多くは定期的な受診が必要な病気を抱えており、貯蓄や生活費を削って何とか受診している姿が浮き彫りになった。

自由記述欄に寄せられた声からは、全世代で安心して医療にかかれない状況（歯科受診を我慢する、薬の伸び延ばしなど）が生じていることが見て取れた。

調査期間：2022年10月22日～2023年3月24日（最終集計）

調査方法：全国の会員医療機関・保険医協会・医会のイベントでの配布、保団連HPのアンケート回答サイトなどで回答。配布枚数約63万部

※アンケートは主に、会員医療機関で配布しており、医療機関を受診している人の回答であることを考慮する必要がある。

有効回答数：17616件

結果概要

75歳以上の人の回答（n=4694）を見ると1つ以上の医療機関を定期的に受診している人は97.8%、2つ以上の診療科に受診している人は71.5%となった（図1）。定期的に受診している診療科は多い順に内科、歯科、眼科、整形外科となった（図2）。高齢者の多くが複数診療科で定期的に受診が必要な疾患を抱えていることが分かる。

図1 受診科数

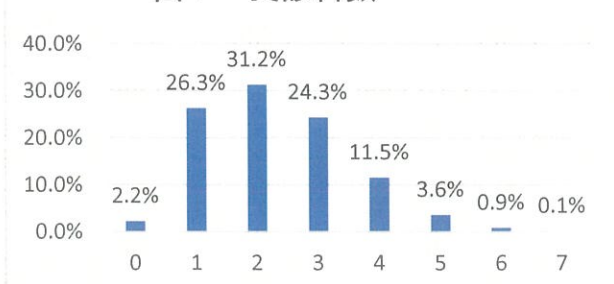
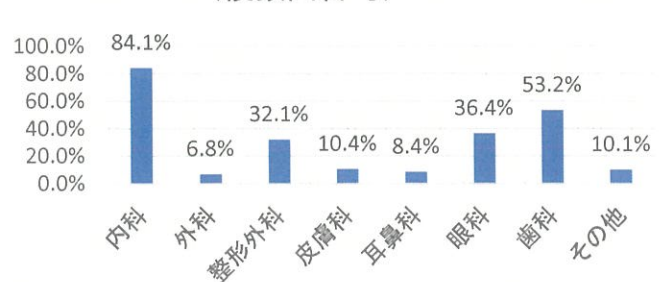


図2 定期的に受診している科
(複数回答可)



1. 75 歳以上の 2 割負担（1440人）の受診状況

（1）「配慮措置」でも経済的理由による受診控え 17.2%

○「過去半年以内に経済的理由で受診を控えたことがある」との回答が 75 歳以上で窓口負担が 2 割の人で 17.2%（247人）。75 歳以上で窓口負担が 1 割の人は、12.8%（345人）。
→政府は昨年 10 月に 75 歳以上の医療費窓口負担 2 割化を実施するにあたり、「（3 年間）の配慮措置（外来患者について施行後 3 年間、窓口負担増は一月で最大 3,000 円以内に抑える）を講じており必要な受診は妨げられない」と国会答弁していた。しかし、窓口 2 割化の人の 2 割弱が経済的理由による受診控えをしていることが分かった。一方、75 歳以上で単身の年収が 200 万円以下の方は窓口負担 1 割が維持されたものの、相次ぐ年金引き下げ、物価高騰、医療・介護の費用負担等の影響を背景に 1 割弱の人が受診を抑制していた。「経済的理由で受診を控えたことがある」と回答した割合は、2 割負担になった人が、1 割負担の人より 4.4 ポイント高く、窓口負担 2 割化の影響が伺える。

図 3 経済的理由による受診控え
(75 歳以上の 2 割負担・年収 200 万円以上)

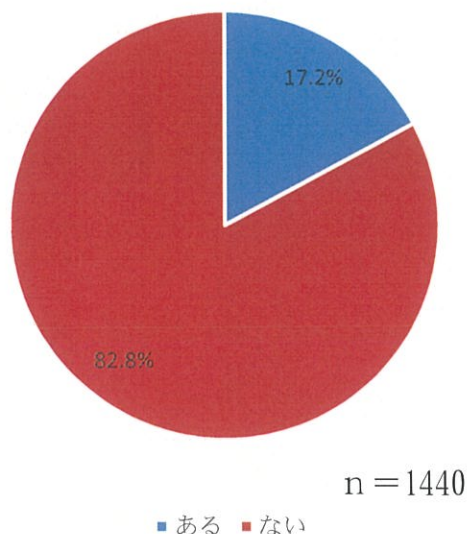
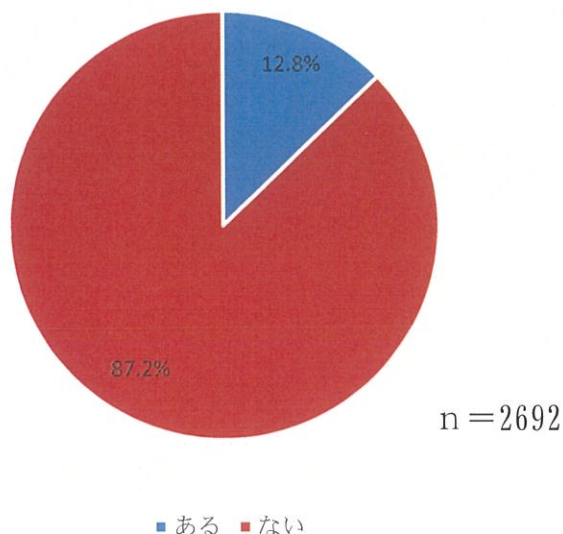


図 4 経済的理由による受診控え
(75 歳以上の 1 割負担・年収 200 万円未満)

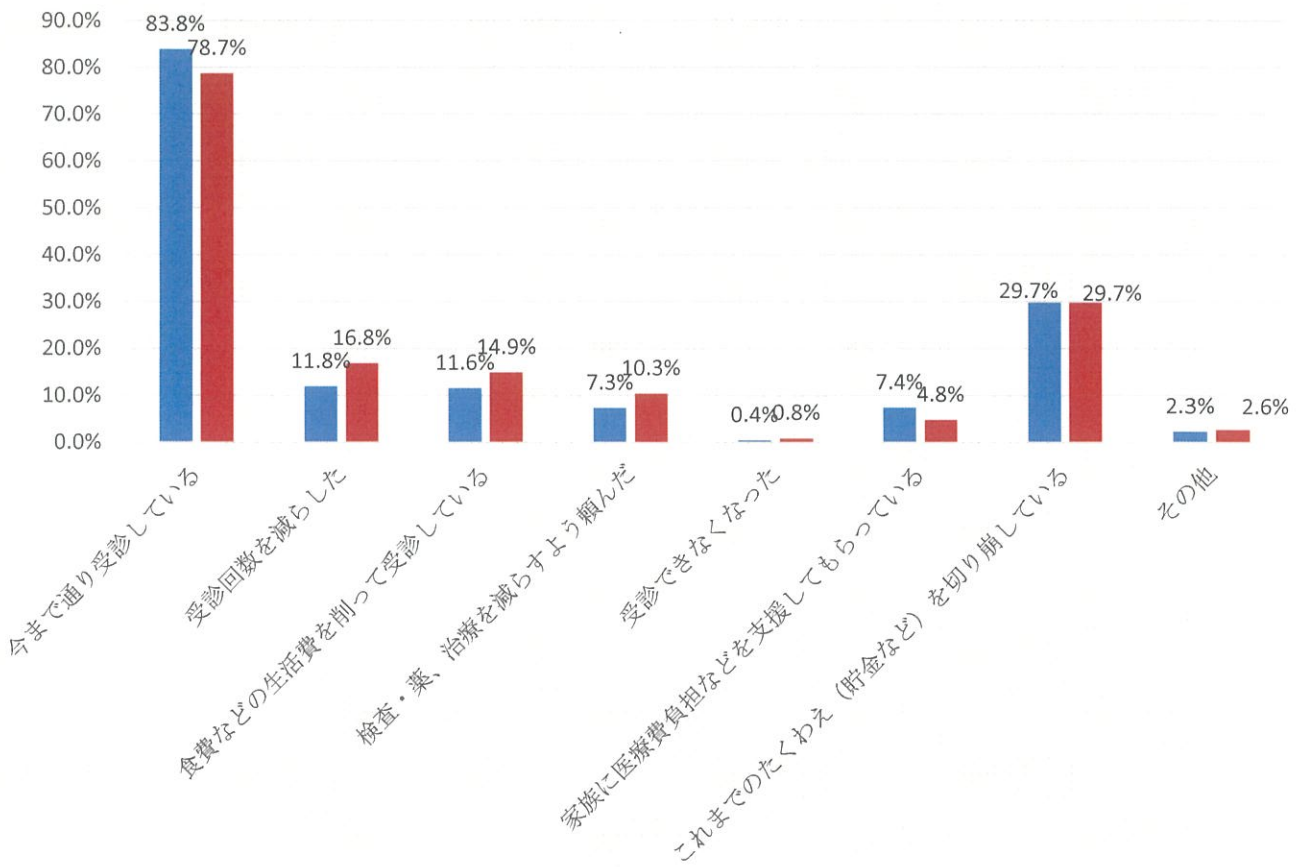


（2）暮らしと受診の状況

○75 歳以上で窓口負担が 2 割になった人（1440人）の受診状況・暮らしの様子についての回答を見ると、78.7%（1133人）が「今まで通り受診している」と回答する一方で、「受診回数を減らした」16.8%（242人）、「食費など生活費を削って受診」14.9%（214人）、検査・薬などを減らした 10.3%（149人）と回答している。1 割負担の人と比べると、「今まで通り受診」が 5 ポイント低い一方で、「受診回数を減らした」が 5 ポイント、「食費など生活費を削って受診」、「検査・薬などを減らした」がそれぞれ約 3 ポイント高い。また、約 3 割が「貯金などを切り崩した 29.7%（428人）」と回答している（図 5）。
→高齢者の多くは定期的に受診が必要な病気を抱えており、受診回数や検査・薬・治療を減らしたり、貯金や生活費を削って何とか受診している状況が伺える。
→また、1 割負担、2 割負担の人ともに、約 3 割が貯蓄を切り崩しており、年金削減と物価・光熱費の高騰、医療・介護の保険料引き上げ、窓口負担増等の影響が考えられる。なお、年収 200 万～300 万円の世帯（75 歳以上、18 歳未満）では、貯蓄額 300 万円以下が 3 割前後。貯蓄無しも 13% 前後ある。
→3 年間限定の配慮措置終了後には、より一層受診控えが広がることも懸念される。

図5 75歳以上・受診・暮らしの様子（複数回答）

■ 1割 ■ 2割



2. 全世代（n=17616人）の受診状況

（1）経済的理由による受診控え 19.6%

○「過去半年以内に経済的理由で受診を控えたことがある」との回答が 19.6%（3454人）。

（2）暮らしと受診の状況

○今まで通り受診しているが 74.6%（13141人）だが、「貯金を切り崩した」19.1%（3357人）、「受診回数を減らした」18.2%（3200人）。全世代で2割近くに受診控えや生活の苦しさなどが見られる。受診抑制「なし」と回答した人でも貯金の切り崩し（16%）、受診回数減（7.1%）などと回答している。

→全世代にわたって、受診控えや生活の苦しさなどが見られる。

3. 自由記述欄には、「安心して医療を受けられない」「これ以上の負担増は無理」

一切実な声溢れる（別紙参照）

<75歳以上の人の声>

- ・がん（右ほほ部細胞癌）の手術をした。7万円ほどかかった。年なので保険はずすめの涙。1割の時よかったが。近くに非課税の世帯がおられるがどちらがいいのか。家内も肝臓がんで入院せんといかんらしい。受診を控える状態でもないのここに来てやっぱり1割UPはえらい（しんどい）。（2割・86歳）
- ・受診前からどれだけ現金が必要か心配している（2割・82歳）
- ・介護保険について、私の主人ですが、以前は要介護2だったのが、介護用品を買わなくなった事と理由で要支援になりました。毎月の支払いがしんどいという事で、病院にも行かず薬も飲んでません。これっておかしいと思います。今の年金では生活はムリです。やはり、老人は早く死ねということです。（76歳・2割）
- ・後期高齢者医療保険料が高すぎて負担が重い。（77歳・1割）

- ・社会保険料で納めた金額は昨年と比較し11,000円増加した。受診している年金は昨年と比較し6500円減少した。17,500円苦しくなった。(82歳・2割)

<現役世代の声>

- ・定期的に通うつもりだったが、窓口負担と薬局の薬代が毎回負担になったので症状が完全によくなる前に受診をやめてしまった。(32歳・3割)
- ・定期受診はしているが、少しの不調や痛みは医療費の負担を考えて我慢することがある(46歳・3割)

<歯科受診>

- ・歯科も本当は定期的に行った方がいいと思うが、痛みもないので通院せず。年齢的にも気になるが優先順位を考えてしまう。生活費の大半を医療費だけに使うことは出来ない。(55歳・3割)
- ・負担が2割になったので歯科はやめました。眼科は目薬を1日3回を2回にして診察を伸ばしています。(80歳・2割)

4. 保団連の要望

一、75歳以上の医療費窓口負担2割化は1割に戻すこと

アンケート結果から「2割化」による高齢者の受診への影響が伺える。社保審医療保険部会において2割化の対象を検討する際に厚労省は、75歳以上で年収200万円【単身】(無職)の支出の推計を示し、収入と支出の差が12万円あるとして窓口負担増の吸収が可能と示唆した。しかし、そもそも厚労省が示したモデルは、高齢者の生活実感とはかけ離れており、さらにその後の年金引き下げと41年ぶりといわれる物価高騰の影響で、前提とされた家計の状況は大きく変わっている。緊急に予算措置等を行って1割負担に戻すべきである。

「2割化」法案が参議院厚生労働委員会で採決された際の附帯決議において、「窓口負担割合の見直しが後期高齢者の受診に与える影響を把握する」ことが決議されている。政府として、決議にある通り、速やかに受診への影響を把握すべきである。

一、後期高齢者の保険料引き上げ、介護の利用者負担2割の対象拡大など、医療・介護の負担増をしないこと

「2割化」を強行し、その影響を把握しないままに、今国会では後期高齢者の保険料を引き上げる法案が提出されている。また、利用者負担2割の対象拡大など介護の負担増も夏までに結論を出すとされている。アンケートの自由記述には保険料負担が重いとの記述も多数寄せられた。すでに受診への影響が生じているもとの、高齢者をさらに医療や介護から遠ざける負担増は許されない。

一、医療・介護の患者・利用者負担を大幅に軽減すること

今回実施したアンケートでは、全世代にわたって、負担が重く受診を手控えている状況や、将来の負担や生活への不安の声が寄せられた。すべての国民がお金の心配なく、安全・安心の医療が受けられるように、医療・介護の患者・利用者負担を大幅に軽減することが必要である。

一、医療・介護への国庫負担を増額すること

2割化は現役世代の負担軽減を口実に強行されたが、現役世代の保険料の軽減額はわずかであり実態は公費の削減がされた。老人保健制度が始まった1983年では、高齢者の医療費に占める国庫負担分は45%だったが、後期高齢者医療制度の導入で35%にまで大きく引き下げられるとともに、高齢者の窓口負担や現役世代の肩代わりが強められてきた。現役の負担軽減というのであれば、少なくとも国庫負担分を45%に戻し、国が責任を果たすべきである。

受診・暮らし実態調査 75歳以上の人の回答 (4694人)

Q1-2.定期的に受診している科(複数回答)

受診科	人数	割合
内科	3946	84.1%
外科	320	6.8%
整形外科	1506	32.1%
皮膚科	487	10.4%
耳鼻科	393	8.4%
眼科	1709	36.4%
歯科	2496	53.2%
その他	475	10.1%

受診科数

受診科数	人数	割合
0	103	2.2%
1	1233	26.3%
2	1466	31.2%
3	1139	24.3%
4	540	11.5%
5	168	3.6%
6	40	0.9%
7	5	0.1%
合計	4694	100.0%

Q1-3.現在の窓口負担割合

負担割合	人数	割合
0割	99	2.1%
1割	2692	57.3%
2割	1440	30.7%
3割	443	9.4%
その他	20	0.4%
合計	4694	100.0%

Q2-1.経済的理由での受診控え

受診控え	人数	割合
ある	663	14.1%
ない	4031	85.9%
合計	4694	100.0%

Q2-2.受診・暮らしの様子(複数回答)

	人数	割合
今まで通り受診している	3860	82.2%
受診回数を減らした	626	13.3%
食費などの生活費を削って受診している	556	11.8%
検査・薬、治療を減らすよう頼んだ	395	8.4%
受診できなくなった	30	0.6%
家族に医療費負担などを支援してもらっている	294	6.3%
これまでのたくわえ(貯金など)を切り崩している	1344	28.6%
その他	116	2.5%

受診・暮らし実態調査 75歳以上・負担割合ごとの回答

Q1-2.定期的に受診している科(複数回答)

受診科	1割		2割		3割	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
内科	2266	84.2%	1215	84.4%	356	80%
外科	183	6.8%	92	6.4%	36	8%
整形外科	900	33.4%	436	30.3%	136	31%
皮膚科	248	9.2%	184	12.8%	40	9%
耳鼻科	215	8.0%	126	8.8%	39	9%
眼科	1000	37.1%	542	37.6%	132	30%
歯科	1401	52.0%	807	56.0%	230	52%
その他	245	9.1%	175	12.2%	47	11%

Q2-1.経済的理由での受診控え

受診控え	1割		2割		3割	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	345	12.8%	247	17.2%	61	13.8%
ない	2347	87.2%	1193	82.8%	382	86.2%
合計	2692	100.0%	1440	100.0%	443	100.0%

75歳以上・自己負担割合×受診科 経済的理由による受診控え「ある」の回答数

	内科		外科		整形外科		皮膚科		耳鼻科		眼科		歯科		その他	
1割	292	12.9%	30	16.4%	147	16.3%	40	16.1%	32	14.9%	144	14.4%	167	11.9%	40	16.3%
2割	217	17.9%	23	25.0%	112	25.7%	43	23.4%	32	25.4%	116	21.4%	160	19.8%	33	18.9%
3割	51	14.3%	7	19.4%	25	18.4%	7	17.5%	6	15.4%	20	15.2%	40	17.4%	8	17.0%

Q2-2.受診・暮らしの様子(複数回答)

	1割		2割		3割	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
今まで通り受診している	2257	83.8%	1133	78.7%	364	82.2%
受診回数を減らした	319	11.8%	242	16.8%	61	13.8%
食費などの生活費を削って受診している	311	11.6%	214	14.9%	25	5.6%
検査・薬、治療を減らすよう頼んだ	197	7.3%	149	10.3%	41	9.3%
受診できなくなった	11	0.4%	12	0.8%	7	1.6%
家族に医療費負担などを支援してもらっている	198	7.4%	69	4.8%	23	5.2%
これまでのたくわえ(貯金など)を切り崩している	800	29.7%	428	29.7%	101	22.8%
その他	61	2.3%	38	2.6%	13	2.9%

国民医療の向上をめざす
全国保険医団体連合会
<https://hodanren.doc-net.or.jp/>

経済的理由で受診できない！
 患者さんの実態が明らかに
 保団連アンケートより

アンケート付リーフ調査の
 最終結果から見える
 患者さんの実態

- 期 間：2022年10月22日～2023年3月24日
- 有効回答数：17616人（最終集計）
- 医療機関の待合室や保険医協会・医会のイベントなどで配布、新聞折り込み

アンケート付リーフで 待合室キャンペーン
患者さんの声を聞かせてください!!
プロジェクト始動

アンケートの目的
 今後の医師・介護の負担増の軽減

いつでもどこでも
 安心して意見を言えるように
 さらに、介護も負担増が
 重なっている!

待合室でぜひ
 ご活用を! ご注意は、最寄りの
 保険医協会・医会、保団連まで

2

アンケート項目

- Q.1 年齢をお書きください。(歳)
- Q.1-2 定期的に受診している科に○をつけてください。(何個でも可)
 ア.内科 イ.外科 ウ.整形外科 エ.皮膚科 オ.耳鼻科 カ.眼科
 キ.歯科 ク.その他()
- Q.1-3 現在の窓口負担の割合に○をつけてください。
 ア.0割 イ.1割 ウ.2割 エ.3割
 オ.その他()
- (過去半年以内についてお聞きします)
- Q.2-1 経済的理由で受診を控えたことがありますか？
 ア.ある イ.ない
- Q.2-2 受診や暮らしの様子について当てはまるものに○をつけてください。(何個でも可)
 ア.今まで通り受診している
 イ.受診回数を減らした
 ウ.食費などの生活費を削って受診している
 エ.検査・薬、治療を減らすよう頼んだ
 オ.受診できなくなった
 カ.家族に医療費負担などを支援してもらっている
 キ.これまでのたくわえ(貯金など)を切り崩している
 ク.その他()
- Q.3 医療費の負担や受診を控えた経験、社会保障について日頃感じていることがあれば、お書きください。(自由記述)

アンケートの目的

長引くコロナ禍、物価高騰、昨年10月から実施された「75歳以上の医療費の窓口負担」2倍化などの中、医療機関での受診控えや患者さんの生活実態が非常に苦しくなっていると医師・歯科医師から多くの声が寄せられている。

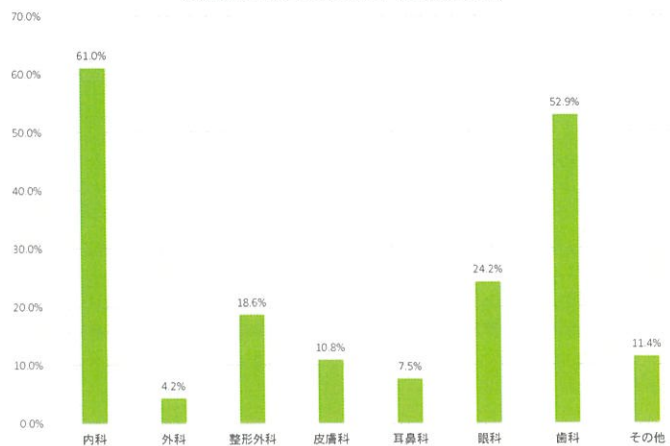
このような中、患者さんの受診状況や生活実態をつかむために医療機関の待合室やイベントなどでアンケートを実施した。



基本情報

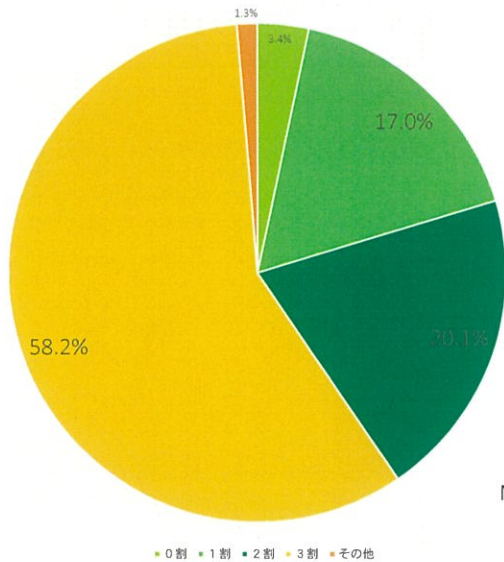
年齢	人数	割合
10歳未満	245	1.4%
10代	420	2.4%
20代	629	3.6%
30代	1069	6.1%
40代	1924	10.9%
50代	2696	15.3%
60代	3509	19.9%
70～74歳	2430	13.8%
75歳以上	4694	26.6%
合計	17616	100.0%

定期的に通診している科 (複数回答可)



現在の窓口負担割合

基本情報②



「0割」は3.4% (593人)

「1割」は17.0% (2990人)

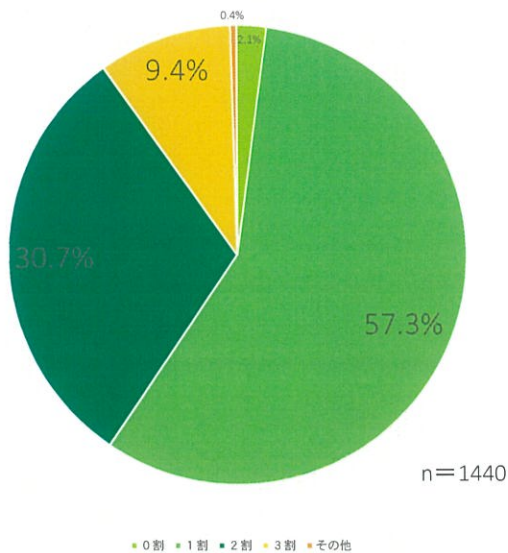
「2割」は20.1% (3549人)

「3割」は58.2% (10259人)



75歳以上で2割負担 (10月から2割になった人)

基本情報③



「0割」は2.1% (99人)

「1割」は57.3% (2692人)

「2割」は30.7% (1440人)

「3割」は9.4% (443人)



75歳以上（2割負担）

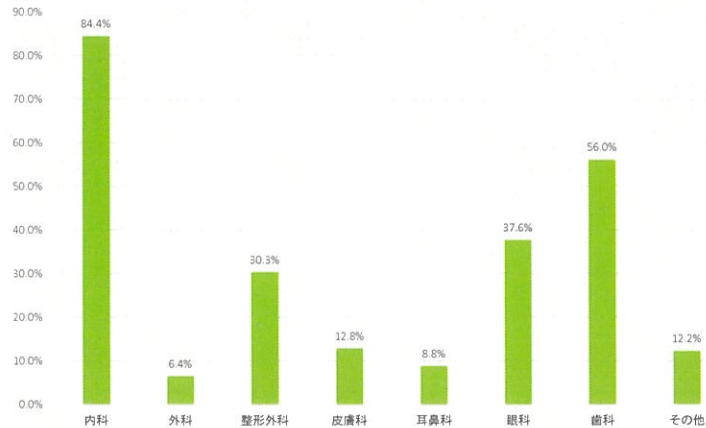
高齢者の多くが複数診療科で受診

75歳以上で2つ以上の医療機関を定期的に受診している人は71.5%となった。定期的に受診している診療科は多い順に内科、歯科、眼科、整形外科となった（右図）。

高齢者の多くが複数診療科で受診せざるを得ない疾患を抱えていることが分かる。

受診科数	人数	割合
0	103	2.2%
1	1233	26.3%
2	1466	31.2%
3	1139	24.3%
4	540	11.5%
5	168	3.6%
6	40	0.9%
7	5	0.1%
合計	4694	100.0%

定期的に受診している科



7

75歳以上（2割負担）過去半年以内の状況①

経済的理由での受診控え

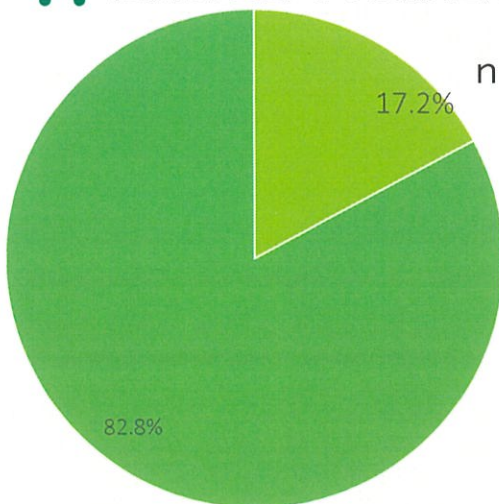
17.2%（247人）が

n = 1440 過去半年以内に経済的理由で

受診を控えている

※アンケート多くは医療機関の待合室で実施しているため、受診できていない人の状況は反映できていない。

75歳以上（1割）の場合では、
12.8%（345人）が受診控え
→ 2割になり、受診を控えている！



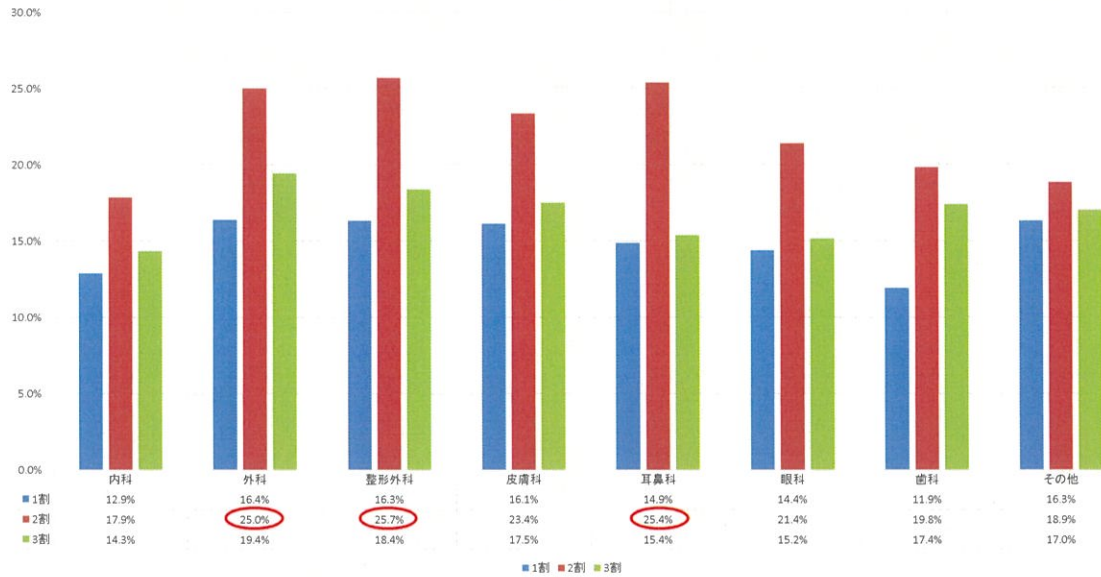
■ある ■ない

窓口負担*受診抑制	窓口負担					合計
	0割	1割	2割	3割	その他	
ある	74	418	596	2323	43	3454
ない	519	2572	2953	7936	182	14162
合計	593	2990	3549	10259	225	17616

8

75歳以上（2割負担） 過去半年以内の状況②

受診科別、窓口負担別の受診抑制の割合

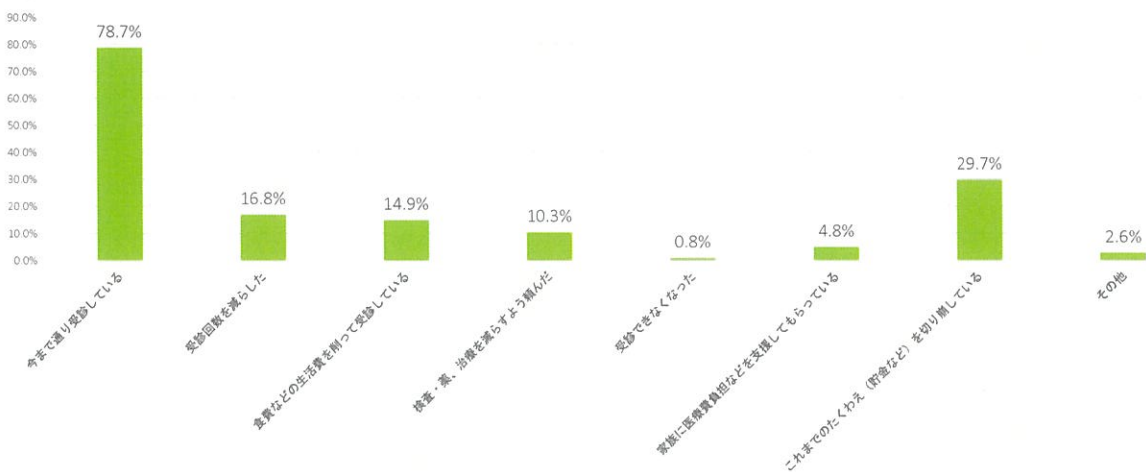


9



受診・暮らしの様子

75歳以上（2割負担） 過去半年以内の状況③

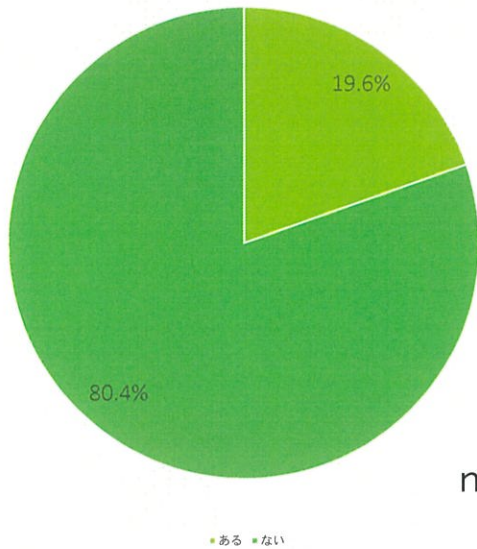


今まで通り受診している78.7%（1133人）だが、
 貯金など切り崩した29.7%（428人）、受診回数を減らした16.8%（242人）。生活費を削って受診14.9%（214人）。
 検査・薬など減らした10.3%（149人）
 →高齢者は定期的に受診が必要な病気を抱えており、貯金や生活を切り詰めて受診している。
 「経過措置」（3年間）が終了後、より一層受診控えや生活困難が広がるのが懸念される。

10

経済的理由での受診控え

全世代 過去半年以内の状況①

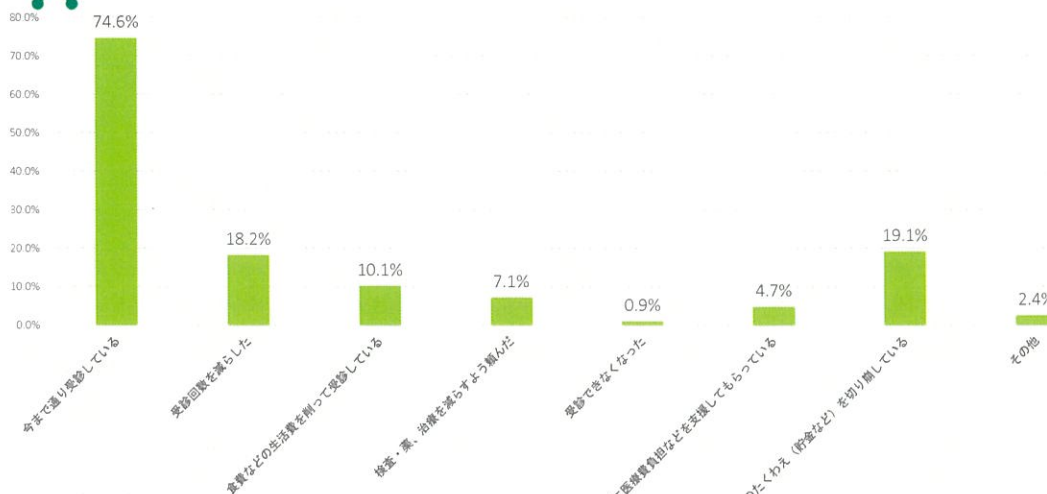


19.6% (3454人) が
過去半年以内に経済的理由で
受診を控えている



受診や暮らしの様子 (複数回答可)

全世代 過去半年以内の状況②



今まで通り受診している74.6% (13141人) だが、
貯金などを切り崩した19.1% (3357人)、受診回数を減らした18.2% (3200人) など
全世代で2割近くに受診控えや生活の苦しさなどが見られる。受診抑制「なし」と回答した人でも
貯金の切り崩し (16%)、受診回数減 (7.1%) などと回答している

リーフアンケートに寄せられた声 75歳以上で2割負担

①86歳（2割）

・がん（右ほほ部細胞癌）の手術をした。7万円ほどかかった。年なので保険はずめの涙。1割の時よかったが。家内も肝臓がんで入院せんといかんらしい。受診を控える状態でもないのここに来てやっぱり1割UPはえらい。

②78歳（2割）

・1割が2割になったという事は2倍になった事で、支払時にびっくりしてしまった。今は介護認定をしなくてもいいが、介護制度が悪くなるので心配、不安です。

③78歳（2割）

・年金受給者です。夫婦とも後期高齢者であり、医療保険料、介護保険料の負担が収入に対し、あまりにも高額のため、将来について不安を大いに感じています。

④80歳（2割）

・負担が2割になったので歯科はやめました。眼科は目薬を1日3回を2回にして診察を伸ばしています。

リーフアンケートに寄せられた声 75歳以上で2割負担

⑤82歳（2割）

・2割負担は大きい。夫は定期的に通う病気、薬等など（料金）倍になり年金だけでは心配です。私の方は少し受診を減らしています。

⑥77歳（2割）

・後期高齢で1割から2割負担になり、夫婦で医療費を生活費より支出しなければならなくなり、とても大変です。

⑦75歳（2割）

・1割負担で精神的に気持ちが楽になったところ、2022.10.1から再度2割負担になってしまい納得がいかない。

※年金生活で苦しい中、病気を抱えて不安な高齢者の切実な声がアンケートには溢れています…

リーフアンケートに寄せられた声 全世代

①37歳（3割）

・1ヶ月に何回か通ったり複数の医療にかかるとう医療費が1万は超えるので回数を減らすか我慢できるなら受診を控えている

②46歳（3割）

・必要な薬なので受診はしているが、物価も上がり、給料は変わらずで生活がキツイ。このままだと、受診を控える日も来てしまうのではないかと考えてしまう。高齢者でも2割負担の人が出てきているので今後は両親の医療費も心配している。

③41歳（3割）

・乳がん検診など、気になる検診を毎年受けたいが自費になるので、何個も検査をするのは高額になるのでやはり控えてしまおうと考える時がある。取り返しのつかない事にならないかも心配もあり、経済面との葛藤がある。

15

リーフアンケートに寄せられた声 全世代

④48歳（3割）

・父が75歳になり1割負担になったのですが、2割負担にとの話。現在、76歳になったばかりで、何の為に長年お勤めをし、高い保険料を納めていたのか疑問を感じます。高齢者に負担をかけ過ぎでは？将来が不安です。

⑤47歳（3割）

・歯科の定期検診を毎月に1度予約して行ってましたが、生活費がきびしく間隔をあけて通っています。

⑥58歳（3割）

・仕事をやめて収入が減ってから、生活の不安が大きい。貯金がないと生きていけない国の政策はひどいと思う。子育ての時には、学費でお金が飛ぶように出ていき、仕事も医療機関の事務で25年間、働き詰めでクタクタになり、子育てが一段落したと思ったら、親の介護が始まり、仕事と両方の負担で疲れきって仕事をやめました。そしたら、今度は生活の不安が。もっと安心して暮らせる世の中にしてほしい。学費で貯金もできない教育制度も変えてほしい。

16

いつでも、どこでも、だれでも安心して 医療が受けられるように…

アンケートの結果から…

高齢者の生活は、決して楽ではありません。

受診控えや生活を切り詰めながら受診する高齢者の姿が浮き彫りになりなりました。

→高齢者が受診を控えると重症化し、命にかかわります

今後、「75歳以上の医療費窓口負担2割」は今後、政省令で対象者が拡大できます

医療機関からの声…

- 患者さんに、治療費用を抑えたいと言われることがあります。

多くの治療が必要な人に限って、そのようになっている気がします。悪循環です。

→75歳以上の医療費の窓口負担を1割に戻そう！

全世代の生活も苦しく、安心して医療に受診出来ている状況ではありません！

→統一地方選挙で、私たちの声を社会保障の充実に反映させるチャンス☆彡

社会保障に私たちの声を反映させよう！

17

「安心して医療を受けたい!」「これ以上の負担はムリ!」患者さんの困難や願いが溢れています
～アンケート付リーフ調査に寄せられた声 (一部抜粋)～

2023/4/10

全国保険医団体連合会医療運動推進本部

期間: 2022年10月22日～2023年3月24日(最終集計) 回答数: 17616人

方法: 医療機関の待合室や保険医協会・医会のイベントなどで配布、新聞折り込み

◆75歳以上の人の声◆

昨年10月から2割負担に「2割は負担が重い」「受診を減らすことも検討」

- ・介護保険について、私の主人ですが、以前は要介護2だったのが、介護用品を買わなくなった事理由で要支援になりました。毎月の支払いがしんどいという事で、病院にも行かず薬も飲んでません。これっておかしいと思います。今の年金では生活はムリです。やはり、老人は早く死ねということです。(76歳・2割)
- ・2割負担になったので来年からは受診を減らそうと思っている。軍事費に回すな。(78歳・2割)
- ・2割負担は大きい。保険料はたくさん払っているのに窓口2割は大反対(79歳・2割)
- ・脊柱管狭窄症の手術費用(15万円)を娘に出してもらった。介護の負担が急に上がって毎月2万円収めることになった。大変!(80歳・2割)
- ・医療や介護の保険料が高くなり困ります(81歳・2割)
- ・がん(右ほほ部細胞癌)の手術をした。7万円ほどかかった。年なので保険はずずめの涙。1割の時よかったが。近くに非課税の世帯がおられるがどちらがいいのか。家内も肝臓がんで入院せんといかんらしい。受診を控える状態でもないのでここに来てやっぱり1割UPはえらい。(86歳・2割)
- ・受診前からどれだけ現金が必要か心配している(82歳・2割)

保険料が高い(75歳以上・2割負担)

- ・社会保険料で納めた金額は昨年と比較し11,000円増加した。受診している年金は昨年と比較し6500円減少した。17,500円苦しくなった。(82歳・2割)
- ・年金支給額の減少、介護保険料、健康保険料の負担増、医療費の1割から2割への負担増、物価高、マイナンバーカード移行への負担増と高齢者には厳しい状況が続いています。(79歳・2割)
 - ・医療保険料・介護保険料など、年々高額になる。年齢が進むと病気も増えるが収入(年金)は増えないので生活費を切りつめてそれらに充て、将来に備えなくてはならない。今の諸制度もいつまでも続くか信頼がおけず不安を感じるばかりである。医療・年金・介護などはすべての国民の問題なので、絶対変更されないものを備えておく必要があると思う。悪い方悪い方へと変化していくように思えて不安ばかり感じる毎日です。長生きは地獄への入口とってしまう。(75歳・2割)
- ・高齢者医療保険料や介護保険料等、毎月の年金から差し引かれているので、少ない年金が益々少なくなり、キチンと払っているにもかかわらず利用料が上がって何のための保険かと腹立たしくなります。国のやり方は間違っている!国民をいじめることしか考えていない。(78歳・2割)
- ・受診料が2割は仕方ないと払っているが、年金から引かれる後期高齢者医療保険料や介護保険料が高いので、生活にはひびくし、1割から2割に負担がふえたことも物価の値上がり、これからの生活が不安。(84歳・2割)
- ・医療費窓口負担が2割に、介護保険料の大幅アップで年金額はダウン。来年4月から介護保険サービスが大幅後退の検討。年金制度は若い人にも影響が大きい。不安、何デヤネン(87歳・2割)
- ・年金受給者です。夫婦とも後期高齢者であり、医療保険料、介護保険料の負担が収入に対し、あまりにも高額のため、将来について不安を大いに感じています。(78歳・2割)

医療・介護の負担重い 1割負担でも大変

- ・主人が介護施設に今年始めから入所しましたが、利用料の負担が意外と多くびっくりしました。息子がいますのでなんとか出来てます。(75歳・1割)
- ・諸物価が次々と高騰し国民年金者にとって、生活が苦しいばかりです。年と共に体調も悪くなるばかり…ガマンしてそれでも痛みが勝てば医者に行きます。(77歳・1割)
- ・介護保険料が負担増で困っています。(78歳・1割)
- ・物価が上がり、年金額は減り、年齢的にも仕事はできず、家計を圧迫している。大変なのに…(79歳・1割)
- ・今は元気で過ごしておりますがこれからは不安です。貯えも底がついて来たら受診しづらくなるのでは？健康に気をつけています。(80歳・1割)
- ・医療費がかさむ。入院(心不全、腎不全を治療中)を出来る限りしないように、生活全体を見直しているが、ヒヤヒヤ感いっぱい。病期進行と同時に多額の医療費も大きな心配です。(86歳・1割)
- ・年金暮らしで、たくさん受診が必要なので家族に負担をかけて申し訳なく思っている。これ以上医療制度(保障)が悪くなると困る。(88歳・1割)

◆前期高齢者(65歳~74歳)の声◆受診控えも経験 将来への不安が強い

- ・病院の回数、受診料が増えてくるので出費が増え、これからは心配です。(65歳・3割)
- ・介護保険の利用者負担やケアプラン有料化のニュースを聞くと、これからは心配になります。2割負担になったら、受診も控えていくようになると思っています。(66歳・3割)
- ・月末にお金がなくて受診できなかった。(67歳・2割)
- ・以前、病院での窓口負担が高くて受診することができなくなった。2年くらい病院に行くのを止めた。(67歳・3割)
- ・月3回を2回に受診、薬減らした。介護保険はどんどん給付範囲を減らし、対象者を締め出している。これは国による制度を通じた殺人行為だと考えます。福祉が人を殺すこの道は国の自殺行為であり、あってはならない。そして軍事費を増やすことは軍国主義とも考えます。軍事費を減らして、医療、福祉、教育に回す。これが人民を守る事。(72歳・2割)
- ・ひとり暮らしで病院に行ったとき、いくらかかるか不安になる。年金はひと月5万円程度。収入もない。(72歳・2割)
- ・来年75歳で後期高齢者になるが75歳以上の医療費窓口負担2割負担に該当するのか不安です(74歳・3割)

◆現役世代の声◆

現役世代にとっても負担が重い

- ・生活に負担がかかるので、本当に病院を受診する時にどうしようかと悩むことはストレスになる。(25歳・3割)
- ・定期的に通うつもりだったが、窓口負担と薬局の薬代が毎回負担になったので症状が完全によくする前に受診をやめてしまった(32歳・3割)
- ・1ヶ月に何回か通ったり複数の医療にかかるとう医療費が1万は超えるので回数を減らすか我慢できるなら受診を控えている(37歳・3割)
- ・毎日必要な薬だとわかっているが、金銭的負担は大きいです。(38歳・3割)
- ・乳がん検診など、気になる検診を毎年受けたいが自費になるので、何個も検査をするのは高額になるのでやはり控えてしまおうと考える時がある。取り返しのつかない事にならないかも心配もあり、経済面との葛藤がある(41歳・3割)
- ・定期受診はしているが、少しの不調や痛みは医療費の負担を考えて我慢することがある(46歳・3割)
- ・物価上昇の為生活するのが大変になっているので給料日以降すぐ行くようにはしていますが、なかなか難しいこともあります。子どもの事が先にまだお金がかかるので病院に行ける様がんばります。健康

が一番ですね。(47歳・3割)

- ・受診が重なると医療費の負担が多少厳しく思う。(52歳・3割)
- ・医療費がどんどん高くなって受診が厳しくなっている。富裕層にもっと負担してもらえばよい(53歳・3割)
- ・賃金は全然上がらない下でも医療費増加、食品高騰、消費税3%から10%で生活大変(64歳・3割)

現役世代も将来が不安

- ・今はあまり病院に行かないですが、この先が不安です。(23歳・3割)
- ・社会保障がどんどん上がっていけば受診控えも考えなければならないことになりそう。(26歳・3割)
- ・収入が少ないのに、医療費の負担が増えるのは死活問題だと思います。今後現状が続けば、もっと受診を控える事も増えると思います。(38歳・3割)
- ・今は困っていないが、年齢を重ねるにつれ病院に通う機会も増える事が予想される。収入もいつどうなるかわからない。そのような中、将来、経済的な理由で、受診を躊躇う事のないような制度であり続けて欲しいと願っている。(38歳・3割)
- ・今後、老後の保険料などが高くなりそうで心配です。(39歳・3割)
- ・今はいいけど、まだ子どもも小さいので、年をとって受診が増えると怖い。(46歳・3割)
- ・必要な薬なので受診はしているが、物価も上がり、給料は変わらずで生活がキツイ。このままだと、受診を控える日も来てしまうのではないかと考えてしまう。高齢者でも2割負担の人が出てきているので、今後は両親の医療費も心配している。(46歳・3割)
- ・働ける間はいいが、高齢者は大変だと思う。(50歳・3割)
- ・これから先、自分たちの負担分を考えると暗い気持ちになる。1日3食食べれるのか・・・とマジで考えます。(55歳・3割)

今は主人と2人共働きでまだ少しは余裕ありますが、どちらか1人になったり働けなくなったら病院に通う余裕もなくなるかもしれないし、病院どころか食べていくのも大変になるかもしれません。パートや自営業は収入も少ないので、同じ仕事をさせられるなら正職員と賃金を同じにして欲しい。税金を下げるなど社会的弱者をもっと守る社会にして欲しい。

(57歳・3割)

- ・今は働いてある程度の収入があるので3割負担でもなんとか支払っていますが仕事を辞めた後のことが不安です(60歳・3割)
- ・現在は働いているので、必要に応じて病院には行っているが、将来どんどん負担割合が高くなるのではないかと不安になる。(61歳・3割)
- ・定年までは大丈夫と思われるが、定年(65歳)後は心配です。(62歳・3割)
- ・今はまだ現役で働いていますが、年金暮らしになったら、受診回数や薬を減らしてもらえない不安があります。(63歳・3割)
- ・今後も受診を続けるのに将来的に医療費の窓口負担が変わらず高いと、病院に行くのを控えてしまいそうなので、負担が少なくなれば良いと思う。(63歳・3割)
- ・今後年金生活になり、今までのように高額な治療や薬代を支払い続けることができるか不安である。(64歳・3割)
- ・介護保険の利用者負担やケアプラン有料化のニュースを聞くと、これからは心配になります。2割負担になったら、受診も控えていくようになると思っています。(66歳・3割)

◆子育て世代の声◆

医療費助成があつて助かる 高校生まで拡充を

- ・2才の子どもがいるのでよく病院には行っていますが、医療費助成がなかったらと思うとゾッとします。(40歳・3割)
- ・小児の福祉医療にはとても助かっています。子どもは急に不調を訴えるものの原因がわからなかったりするのですぐ病院に連れていけるので安心です。(5歳・0割)

- ・今は負担額がないので安心して病院に通えるが、子どもが学校を卒業するとなかなか病院に行けなくなるだろうと心配しています。(44 歳・0 割)
- ・今のところ必要な受診はできていますが、是非子どもの医療費無料化は高校卒業までを実現してほしいです。(55 歳・3 割)
- ・子ども医療費の補助制度を高校卒業までにしてほしいです。(14 歳・3 割)
- ・子ども 2 人が小児喘息で毎月受診をしています。薬が多いため、明細書を見るとぞっとします。しかし、子ども医療受給券のおかげでお薬代がかからないため、大変助かっています。これが自分だったらと思うと、医療機関の分も薬局も 3 割で、大変なことだと思う。この制度のお陰で、毎月安心して、経済的な心配なく受診出来ています。(40 歳・3 割)
- ・子どもの手当も減らされているので、子どもの医療費がかかるようになったら受診しにくくなるなと感じている。(35 歳・3 割)
- ・子どもの医療費が自治体によって違うので、今住んでいる所だと中学生から医療費がかかってしまうので、できれば高校卒業まで無償化してほしい。(30 歳・3 割)
- ・学生なので医療費を安くしてほしい (15、20 歳・3 割)
- ・インフルエンザ等のワクチン接種が高額なので毎年打つかを悩みます。補助していただけたらと思います (せめて学生の間だけでも) (16 歳・3 割)

保険でより良い歯科医療を！

◆歯科受診している人の声◆

2割負担になったため、歯科受診を中断せざるを得ない

- ・負担が 2 割になったので歯科はやめました。眼科は目薬を 1 日 3 回を 2 回にして診察を伸ばしています。(80 歳・2 割)
- ・窓口負担が 2 割となり、耳鼻科、眼科、歯科の受診をためらっている。(82 歳・2 割)
- ・年金も減らされたため歯科に行きたいところですが苦しい。この先不安だらけ。(90 歳・2 割)

受診したくても、経済的理由でためらってしまう

- ・歯科も本当は定期的に行った方がいいと思うが、痛みもないので通院せず。年齢的にも気になるが優先順位を考えてしまう。生活費の大半を医療費だけに使うことは出来ない。(55 歳・3 割)
- ・以前派遣で働いている間は受診を控えていました。特に歯科はもう何年も受診していません。気にはなるものの、費用がかかるので行くのに覚悟が必要です。(37 歳・3 割)
- ・歯科がとにかく高額に感じております。3 か月に 1 度の定期検診・虫歯なしで 1 万円近く払い、つらいので 4 か月に 1 度にしてもらいました。次回虫歯があればまた 3 か月に戻さなければなりません。が・・・。(45 歳・3 割)
- ・歯科、行きたいけど費用がいくらかかるか、通院がいつまでかかるか不安で行けない。痛みが強くなると行かないと思う。(33 歳・3 割)
- ・子どもが 3 人 (高校生 2 人と中学生 1 人) いますが、医療費が高校生から支払う必要性があり、今まですぐに受診していた事でもためらい、受診が遅れることがある。自分の歯科検診も、間隔を今までより空けるようお願いしている。(49 歳・N/A)
- ・歯科検診を 2 回から 1 回にして医療費を安くしている。できるだけ受診しないようにしている。(65 歳・3 割)

受診をためらった結果、悪化してしまった

- ・歯科の定期受診 (3 ヶ月ごと) に通えなくなり、その間に進行してしまった歯周病により、虫歯の進行とは別に、2 本の抜歯をせざるを得なくなってしまった。歯周病は他の大きな病気を誘発する元凶であることが判明しているのだから、国の医療費負担を軽減するためにも、歯周病予防や治療の補助を国で制度化してほしい！ (67 歳・0 割)
- ・新型コロナウイルスの影響により収入が減ってしまい、自分自身もコロナウイルスに感染し、休んだ

ことにより給料が激減した月がありました。その時期に歯科で治療を行っていたのですが、医療費の支払いまでお金が回らず、治療を断念せざるを得なくなりました。その結果、病状が悪化し、歯茎切開の手術をすることとなり、より多くの医療費が必要となりました。治療を断念したことを後悔しています。
(28 歳・3割)